

沖繩キリスト教短期大学報

那覇市首里当蔵町3-6-1
 沖繩キリスト教短期大学
 電話 32-5161
 発行人 金城重明
 編集人 学報編集委員会
 印刷所 協栄印刷株式会社
 電話 09889⑦4094

▽キリ短を辞して△

上地教会牧師 比嘉盛二郎

傍らに教会、傍らに教育の業と教会の二大事業である宣教と教育の二つの業に十八年間携わってきた私は、昨年末その働きの場であったキリ短を辞し、教会一筋に歩むことになった。

教会が短大が二者択一を迫られたとき、随分と思ひ悩み、二転三転したものであるが、最終的には短大辞任の道を選んだ。

いやむしる教会にとどまるよう示されたという方が正しいかも知れない。もともと教会者として神の召命を受けたのであるから、当然の帰結といえるのかも知れないが、正直なところ、生活という現実の問題と、教区立としてのキリ短の今後を思う時心中複雑なものがあった。特にキリスト教主義教育を目標とするキリ短の現状を見その将来を展望する時、憂慮せずにおられないものがある。

ケリグマ(宣教)とデイダケ(教育)この二つの業は教育がキリストから託された重大使命である(マタイ二八・一九・二〇)。

思えばこの教会の二大使命を遂行すべく、教区は宣教の業を行なう一方一九五七年四月九日、沖繩キリスト教学院を創立、キリスト教精神にもとづく教育の業を開始したのであった。しかし時代の變遷と共に、キリスト教学科への志望者が減少、遂に一九七〇年キリ

短大への移行、沖繩の施政権返還にともない、キリスト教科目の設置も次第に困難な状況となり、縮小を余儀なくされるに至った。そして現在礼拝も週一回からうろじて守られる状態となり、出席者も一部教職員といった惨状(？)を呈するに至った。あまつさえ教区に於いては建学の精神が問われ、学院の存在についての根本的検討を迫られている。

創立当初、少数教育をモットーとした学究も学生増の方針に踏み切ったが、この点がまた建学の精神に関わる問題となった。

文部省の短大設置基準に合わせるため、新しい敷地への移転も計画されているが、これも困難な状況に直面して居り、現在の場所でも数百名の学生を抱えて身動きの出来ない状態である。このような状況のもと教育の質の低下も憂慮される問題である。

かかる満身創痍のキリ短を去って間接的にしか関われない現在の私の立場をどうにかしと思う。しかしキリ短に対してアウトサイダーの立場をとることは罪悪である。何らかの形で今後共キリ短の悩みをわが悩みとし、キリ短の問題をわが問題として共にその重荷を負い続けていきたいと願っている。

新任教師紹介

英語科

エウエリン・スワン先生 (助教)



ウィリアム・ロイ先生の後任として赴任されたエウエリン・スワン先生

カナダで数年間教鞭をとった後一九四六年中国で教育宣教師としての仕事を始められた。その後リスボンでポルトガル語を学び、一九五三年から一九七五年までの二〇余年間、アフリカ大陸のアンゴラで教育宣教師として奉仕された。

キリ短英語科にふさわしい、国際性ゆたかなキャリアの持主、長い貴重な人生経験を内に秘めた温厚な人柄で時々ピリッとしたジョークをとばす。(比嘉)

島袋忠雄先生 (講師)



一九六三年、琉球大学英文学卒業、卒業後、野座中学校で五カ

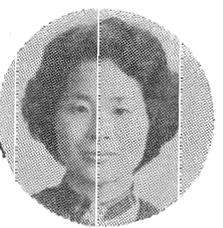
年、宜野座高等学校で二カ年教鞭を執った後上京、上智大学大学院修士課程、東洋大学大学院博士課程に学ぶ。一九七六年博士課程修了。千葉教養経済大学専任講師、大東文化大学非常勤講師を勤めた後今年四月、本短大英語科講師となる。

専攻は英国文学、特に、十九世紀英国の作家、ロバート・レイ・ステイヴンソンを研究している。イタリア人とイタリア語とスバッゲティが大好きで慶応義塾外国語学校イタリア語科も卒業している。カンツォーネを聞くことを趣味とする。

一見無口、しかし、きわめてユニークなセンスに富む独身講師である。(比嘉)

保育科

糸数美智子先生 (助手)



糸数美智子氏は一九六六年、琉球大学教育学部音楽科を卒業し、その後東京芸芸大学教育学部音楽科の聴講生をうけながら、中村邦子氏に声楽を、石本民子氏にピアノを師事し、研鑽を重ねた。

一九七一年より六年間沖繩女子短期大学において「音楽リズム」の非常勤講師として勤務した。その傍、沖繩県児童家庭課主催による各地区の保育所保育の講習会で

講師として活躍された。

糸数美智子氏は、音楽リズムの研究に情熱をもやしており、幼児に対する音楽教育に新たな光明を与えてくれるものご期待している。また、豊かな教育経験をとおして、幼児教育者の養成に邁進されんことを期待している。(遠藤)

一般教育課程

大城宣武先生 (助手)

もう何年になるだろうか。当時キリスト教学生センター



その件の学生が、当時琉大生であった大城宣武氏であった。何気なく行っていることに自覚的な関わりを迫る。氏の生き方から来るものだと感じる。そのような方は、今度は一般教育課程に同労者として迎えることは喜ばしい限りである。大城氏は意味論を専門にしており、統計学、科学研究法、教育心理学等を担当する。多才な先生の御活躍を期待してやまない。(大城)

新入生歓迎の辞

学長 金城重明



本日ここに沖繩キリスト教短期大学第二回入学式を挙行するに当たり、

り、英語科一八〇名、保育科一二一名の新入生を心から歓迎し、諸君並びに御父兄皆様に祝福とお慶びの言葉を申し上げます。

本年は開学二〇周年に当り、丁度成人式を迎える事になります。本学は神の限り無い御恩寵と多くの主たる兄弟姉妹、内外の関係者の支えと御協力とによって、重みのある二〇年の歴史を築き上げた今日の発展を見る事が出来ました感謝に堪えません。

新入生諸君は他の大学ではなく本学を選び合格の栄を勝ち取った。本短大も多くの応募者の中から、他の人々ではなく、正に諸君を選び取ったのです。お互いに選び取るという事は、両者が約束関係に入る事であり、互いに責任を負い合っていくことを意味する。学校は諸君が二ヶ年間恙なく勉学を全うし、学生生活を送れるように、教育環境を整備し提供する責任を負っております。学生諸君は学業生活に於いて本学の学生としての自覚を以て、その責務を果さなければなりません。

本学の建学の精神、教育の理念は、申すまでもなくキリストの御旨であり、キリストの福音であります。先達を選び取るという言葉が、神様が愛を以て人間を選び、新しい愛の約束関係、人間関係を結ぶ事を信仰と申します。神は人間がどの様な状況にあっても、たとえ愛される資格を失った時にも、尚人間を愛し続け、愛し抜かれるのです。人間は神の大なる恵みに応えて隣人を愛し、人々に仕えて行かねばなりません「応答する」(respond)という言葉から「責任」(responsibility)という言葉が生れたには深い意味があったのではないかと想われるのであります。人間が人間として生きる責任性の根源は、人間が知ると知らざるとに拘らず、神の呼び掛けに応えなければならぬ存在であると言う所に存するのであります。

現代人は凡ゆる時代の人々に優つて権利意識に目覚めて来た。その事は大いに喜ぶべき事であり、また当然な事柄でしょう。然しその反面、隣人との関わり、社会関係に於いて、我々は責任意識、義務感が鈍いのではないかと思ふのです。

自覚的に隣人と共に生き、責任を以て隣人と関わる主体的人間を養う事が本学の教育の目標であり且つ私共一八々々の課題でもあり

「真理」と言ふギリシア語アレーセイアとは、「覆いを取り除くこと」「隠された状態から明るみに出されること」を意味します。教育が秘められた可能性を引き出す業(education)であるならば、教育とは文字通り真理の探求に他ならない。諸君はこれから、教養や専門分野の研究、技術の修得、或はクラブ活動等を通して、自らの可能性を引き出して大いに成長発展させて下さい。

聖書で言う真理は、一般的意味に加えて、「真実なるもの」「本物」「信頼出来るもの」を意味しそれは神の子キリストによって人間に与えられた。単なる知識や教養ではありません。それは神と人間との具体的、歴史の出会いであり、文字通り出会いとしての真理であります。教師や学生との出会いを通して新しいもの、大いなる方との出会いを通して真なるものを獲得して下さい。

真理の探求の場としての大学はその学問研究に於いて、凡ゆる政治的権力、社会的圧力、特定のイデオロギーから自由でなければなりません。学問はそれ自体目的であり、然し目的である学問が、真に光を放つのであります。そして学問は人間を無知蒙昧から救う事ができる。

聖書は「真理はあなたがたに自由を得させるである。」(ヨハネ福八・三二)と述べている。それは罪と死からの人間の解放、根源的意味での人間解放を示しております。イエスキリストの御旨は、人間に自由を与える事であって、決して人間を拘束することではない。そしてその自由は愛すること、仕えることに用いられなければならない事と、孔子は「己の欲せざることを人に施すこと勿れ」と言ったが、キリストは「何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ」との黄金律を示された。またアウグスティヌスは「愛せよ、然るのち、望むことをなせ」と教えた他者のため、隣人のために自由が用いられる時、最高の輝きを示すのである。

諸君は向う二ヶ年間自由が与えられています。学ぶ自由、知る自由、行動する自由が、悔いの無い様に、その自由を大いに用い、目標を見定めて多くの事を学び、経験して下さい。

(一九七七年四月一日、入学式祝辞から)

◆英語科の現況◆

英語科科長 比嘉 健次郎

文化交流について、劇作家の内村直也が、こんなことを言っている。「各国の文化の基本となるものは、言語と宗教であろう。この二つが長い歴史の間に様々な面でその国の国民性を創り出して、文化交流において、最も必要なことは、相手国の、言語と宗教を理解することだ。ここからずべてが発しているのだから、この理解がないと、本当に相手国の文化はわからない。」キリ短で英語を学ぶことの意義もまたここにありではないか。英語という言語と西洋文化の根幹をなすキリスト教という宗教を、同時に学ぶことができるのが、キリ短英語科なのである。とひそかに自負している次第である。

キリ短における英語教育はどうあるべきか。何度か集まり、議論を重ねたが、まだ結論は出ていない。学生ひとりひとりが国際的コミュニケーションの手段としての英語を駆使できるように、というのが我々の大きな願いである。世界はますます国際化してきた。たしかに語学力と豊かな国際感覚を身につけた人間の育成が、今ほど必要とされる時代はない。昨年二〇〇名、今年一八〇名の学生が入学した。従来より一四〇名も多く、英語科に在籍していることになる。教育の質を低下させぬよう昨年一人、今年一人

整などが行なわれているところである。カリキュラムについても、たえず検討を続けている。今年から、開設学期等の一部変更、よりスムーズに履修できるようにした。また、英語学Ⅱ、米国文学Ⅱ、簿記文書実務等のコースを新設した。質的にも量的にも、カリキュラムをより充実していきたいと思っている。

英語科の一年

大城 康子

何の目的もなく英語にさえ興味はなかった私が何故英語科に入学したのか、いま考えても恥ずかしくなる。そして、何をどう間違えたのか英語クラブに席を占めては一年、そのうち半年以上を英語劇にうち込んだ。英語科に入ってから自分に良かったのかどうか考えてみる余裕もなく夢中で過ごした一年間であった。

入学して英語の授業の多いのは驚いた。初めて学ぶオーラル・イングリッシュ。目の前に外人講師を見た時の不安とまどい。英文法、英文法、英語講義、ドラマ、etc. 耐えきれず、毎週のように友人を訪ねておしゃべりをしては自分をなぐさめたものだ。こんな私だが、今では英語に魅力を感じはじめ、遠いアメリカに憧れるようになった。英語を学ぶことの苦痛が希望にかわりつつあるのだ。英語の勉強を通して自分の進むべき道を見つけたからだろうか。逃避するような気持ち

でこの短大に入学した私にも、自分の目的らしきものが定まり、学園生活が楽しくなってきた今日この頃である。(英語科二年)

英語科に入学して

嘉場田 優子

入学して六週間が過ぎ、新入生らしく倦怠を感じることもしばしばだが、こと英語の講義に関しては別問題で、これは、緊張の連続だと言っても、決して大げさではない。元来、英語が得意というわけではないので、特に、オーラル・イングリッシュやイングリッシュ・ドラマなどで、外人講師がペラペラとしゃべり始めると、のなら、ただそれだけで威圧されそうになる。理解できない時はなおさらで、お得意の「Japanese smile」で必死にこまそうとするが、それも、もう使えなくなる。入学当時、「さあ、やるぞ、」などと、なまじり気負っただけに、落胆することも度々だ。恥かしさで、真赤になりながらも、聞きななび、単語をたどつなぎ合わせてただけのような英語で、一生懸命話そうとはするのだから、我ながら、健気といふ言いがたない。それに、落胆したからと言って、そう可もかも失望して、るわちでもないのだ。むしろ、英語に対する興味は、以前より増したほどだ。偏見に満ちた西洋志向だと指摘されるかも知れないが、ヨコ文字というといふ数段も知的でスマートな感じを受けるのは私だけだろうか。そして、その英語が、キ

キリ短・英語科に学んで

山城 泉

私は、今春三月キリ短を卒業、新しくスタートを切ったばかりの社会人一年生。残念ながら今の仕事に英語を必要としない。しかしキリ短英語科で学んだこと、あの素晴らしい雰囲気は決して忘れない。たとえ仕事で英語を必要としていなくても、キリ短で学んだ二年を無駄に、これからも英語の勉強を続けたい。見知らぬ沖繩で困惑している外国人を見たら私はためらわず「May I help you?」と声をかけるだろう。キリ短で学んだ英語が、私の自信となってくれているのだ。

英語はイギリスやアメリカだけのものではなく、万国共通の国際語だ。これからの世代はぜひ身につけておくべきだろう。つがキリ短に学ぶ後輩の皆様、広い視野をもって英語を学び、知的な国際人になって欲しい。そして少しでも多く英語の知識を吸収し、キリ短に学んだ満足感を、私と同様十分味わって欲しい。(琉銀本店営業部勤務)

入学式

一九七七年本短大入学式(第二十一回)は去る四月一日、父兄多数を交えて、首里博物館ホールで挙行された。本年度入学者数は保育科一二一名、英語科一八〇名、合計三〇一名、厳しい競争をくり抜けて入

開学二〇周年記念 特別講演会

四月九日は本短大の開学記念日一九五七年のこの日沖繩キリスト教団によって「沖繩キリスト教学院」として創立されて以来今年二〇周年に当る。その開学二〇周年を記念して、今年には特に東京から、国際キリスト教大理事長の湯浅八郎先生をお迎えして記念講演会を開いた。

二〇〇名以上の出席者を前に、「今日の教育を考える」という題で講演して戴いたが、自然科学者としての背景を持った先生の講演は、三十億光年の歴史を有し、現に限りなく拡大し続ける無限の宇宙の中の有限の地球とその世界というお話で大変感銘深い講演であった。湯浅八郎先生には深く感謝致したいと思えます。

新入生の皆さんへ

学生会長 大城 奈保

五月を迎えた今、みなさんは入学直後のとまどいや不安も消え、ようやく短大生活に慣れてきたのではないだろうか。このような情緒的に安定した状態で、これからの短大生活を指向することは、今の時点で何より重要なことである。しかし、多分、そうできる人ばかりではないと思います。私自身の経験からいって、むしろ短大生活に慣れるに任せて、これまでのような新鮮な驚きや目あたらしい経験も毎日の単調な時間の中に埋もれ、大学にきた目的さえも見失いつつある場合が多いようです。(私の取越し苦労ならよろしいのですが)

新入生オリエンテーション・シンクタンク

本年度の新入生オリエンテーション・シンクタンクは、四月二十三日から二十五日迄の二泊三日、渡ヶ敷島「国立青年の家」でとり行なわれた。

今年に例年と違ってプログラムを出来るだけ自由にしたせいかすべてに窮屈さがなく自由で大らかなキャンプであった。二日目のスポーティー(ハイキング、水泳、カヌー)を中心に、

天気にも恵まれて桂妻らす美しい渡ヶ敷島の自然に思う存分楽しむことが出来た。

このキャンプで得た元気さでまたこのキャンプで得た元気さで、これから二年間の学園生活を充分によく楽しんでほしいと思う。参加人員は総勢で二七三名。

1977年度入試統計

Table with 5 columns: 英語科, 保育科, 合計, 定員, 受験者. Rows include 合格者平均点, 合格者最高点, 合格者最低点, 定員, 受験者, 合格者率, 競争率, 入学者, 応募者, 県外応募者.

Table with 2 columns: 英語科, 保育科. Rows include 合格者平均点, 合格者最高点, 合格者最低点.

